

2026年 7月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	117.2
阪神梅田本店	117.9
支店計	104.4
全店計	112.8

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- ・ 前月までの好調な趨勢を維持し、全店売上高は前年に対して約1割増と4月以降2ヶ月伸長が継続。都心店全店が前年の売上高を上回り、阪急・阪神両本店は4ヶ月連続で共に2ヶ月増と牽引。また、郊外店合計でも前年の売上高を上回った。国内顧客の売上高は前年に対して約1割増と高伸が継続、さらに免税売上高も約3割増と前月に続く大きな伸びを示した。
- ・ インバウンドについては、中国からのツーリストの売上高は前年の約3割減と厳しい状況が続くものの、中国を含む海外VIP売上高は前年の約8割増と大きく牽引し、免税売上高全体としては3月以降継続して前年を上回る。
- ・ 阪神梅田本店は、非識別客の売上高の伸びも寄与し、前年の売上高に対して約2割増と好調継続。中でも、ファッション・ライフスタイルカテゴリーの売上高が前年に対して約3割増と大きく伸長し、食品も約1割増と高い伸びを維持。
- ・ お中元商戦については、継続的な儀礼ギフトマーケット縮小の影響で、ギフトとしてニーズの高いビールや飲料、そうめんが苦戦。全体の売上高は前年をやや下回る水準で推移。一方で、アイスデザートを充実させたケーキ宅配や果物の素材を生かした涼を感じる和洋菓子など、こだわりの商品が高伸。

○ 阪急本店の概況

- ・ 国内顧客の売上高が前年に対し約1割増と高伸、免税売上高も約3割増と大きな伸びを示し、店舗全体としても約2割増と、7月として過去最高の売上高を更新。
- ・ 5・6階『HANKYU LUXURY』を中心に、高額商材の売上が牽引し全館の100万円以上の高額品売上高は前年に対し約5割増と引き続き大きな伸びを示した。インターナショナルブティックは前年の売上高に対して約5割増、宝飾品・時計は約4割増といずれも高伸。引き続きブライダルニーズの好調なアクセサリーも約4割増と大きく売上を伸ばした。
- ・ また、近畿地方では上旬に梅雨明けし、猛暑が続く中、夏のファッションが本格稼働。コンテポラリーファッションでは前年の売上高に対して約2割増と大きく伸長、また、モードファッションや婦人靴も約1割増と好調。アイテムではTシャツ、バラソル、サンダルが牽引。夏のクリアランスが中旬からスタートしたが、定価商材、セール商材に関係なく、鮮度のある商品が人気。
- ・ 人気催事「ハワイフェア」を2週間開催。会期を通して、ハンバーガーやマラサダ等、食品の売上が牽引。後半は、梅雨明けとともにワンピースやアロハシャツが急伸。前半・後半の出店ブランドをほぼ入れ替えたことで、後半の魅力も高まる。期間を通して多くのお客様で賑わい、同催事として過去最高の売上高を更新。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2025年度									2026年度			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
阪急本店	86.6	103.1	99.2	104.9	100.7	93.2	100.7	95.9	107.0	111.7	117.0	117.8	117.2
阪神梅田本店	106.6	118.3	134.0	112.7	122.9	107.4	136.5	126.3	119.2	127.2	126.0	111.9	117.9
支店計	94.3	104.1	99.4	102.6	102.8	97.1	101.4	99.0	101.5	105.1	108.6	100.9	104.4
全店計	91.2	105.1	103.2	104.9	103.6	96.0	104.1	99.8	106.4	110.9	115.1	111.1	112.8

■ 食品事業

食品スーパー計	売上高前年比(%)
既存店 計	98.7

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

< 本件に関するお問い合わせ先 >

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181